

# 子宮内膜炎の原因とその対策

千葉県・なのはなベテリナリーサービス 榎戸利恵

## 子宮内膜炎による被害

子宮内膜炎は子宮疾患の大半を占め、精子の運動性疎外および死滅、受精卵の着床阻害により不妊の原因となります。子宮内膜炎の問題がある農場では、再発の豚の増加、分娩率が低くなります。

## 原因

主に分娩後および交配時の子宮内への日和見感染が原因で起こります。子宮内膜炎を起こす菌としては、大腸菌、アクチノマイセス、連鎖球菌、ブドウ球菌、緑膿菌などです。通常、発情ホルモンの血中濃度が高いレベルで維持されているときはこれらの菌は子宮では増殖しませんが、免疫抵抗性の下がる分娩後、および発情ホルモンレベルが下がり、黄体ホルモンレベルの上昇する交配後に感染しやすくなり、急激に増殖するものと考えられています。

## 症状

正常な所見として、分娩後三〜四日以内に濃い粘性性のおりものが排せつされることがあります。この場合、母豚が健康で、乳房が正常であり、乳房炎がないならば、正常と判断してもかまいません。従って、特に薬剤投与をする必要はありません。

ただし、ひどく臭う血色の排せつ物が出る場合には胎児遺残もしくは胎盤停滞の疑いがあるので、常によく観察して対処する必要があります。生殖サイクルの中で、排せつ物が臨床的に重要である時期は、種付け後一四〜二一日までの間です。その時期に少量の粘性性のおりものが見られる母豚は、再発を繰り返すようになる可能性があるので、しっかりとマークし、淘汰候補としておきましょう。なお、淘汰する場合、妊娠鑑定を確実に実施して不妊を確認してからにしましょう。

このような母豚の繁殖試験で、問題があった（交配後に、五日間以上

外陰部排せつ物が見られた）群で二八%のみが分娩、六二%が再発であったという報告があります。もし、このような母豚が農場にいれば、間違いなく淘汰をした方がよいでしょう。分娩率が極端に低くなり、さらに一腹当たりの産子数も少なくなり、経済的な問題は大きくなります。もし、読者の皆さんの農場で分娩率が低くてお悩みでしたら、子宮内膜炎が原因の可能性があります。

そして、再発を繰り返す母豚の治療を試みる臨床的意義は低いのです。子宮内膜炎の問題がある農場では、交配後三〇〜四〇日での妊娠鑑定で、疑わしいもしくは不妊の診断がされる傾向があります。その後の流産などの問題はなく、分娩も、生まれてくる子豚の大きさも、母豚の健康状態も問題がないというのが特徴です。ですから、流産などの分かりやすい指標はなく、もし外陰部からのおりものが出ていないか、もしくは目立たない潜在性子宮内膜炎の場合、単に再発が多く、繁殖成績が悪いという結果だけが残り、非常に分かりにくいものとなります。また、繁殖成

績に問題がある農場では、母豚の飼養環境が不衛生な傾向があります。

診断

外陰部のおりものや採取した精液を家畜保健所やメーカーに細菌検査に依頼し、原因菌を検索し、感受性薬剤を見つけてみますが、必ずしも病原菌が見つからないこともあります。

交配後の外陰部からおりものが出る原因や、再発の問題を深刻にする主な要因に以下をあげます。読者の皆さん、自分の農場に該当がないか、チェックしてみてください（表1）。

対策

雄の精液と雌の外陰部排せつ物から細菌検査を実施し、感受性薬剤が決定された場合、その薬剤を投与します。

(1) 雄への対策

次の三つの方法があります。雄は、

注射に対して神経質になりやすいので、注射は避けた方が無難です。

- ① 包皮への薬剤の注入。
- ② イソジンによる包皮内洗浄（二%ヨード液を精液ボトルに入れ包皮内に注入し三回程度揉みます。これを月一回程度実施すると、子宮内膜炎が改善することがあります。）
- ③ 抗菌性薬剤の筋肉注射。
- ④ 飼料添加（一〇日間）。

また、具体例を写真1、2に示しました。

(2) 雌への対策

- ① AIのカテーターを使用し、感受性薬剤を膈から子宮頸管の手前まで送る（交

表1 子宮内膜炎のチェック項目

<ul style="list-style-type: none"> <li>● 授乳期間が短くないか（14～21日未満）？</li> <li>● 1回の種付け時期につき、頻回交配していないか？</li> <li>● 交配時の包皮の扱いや、精液採取時の失態はないか？</li> <li>● 交配時に監督していないのではないか？</li> <li>● 発情時期最後の交配（ホルモンバランスで感染しやすい）ではないか？</li> <li>● 雄の豚房、雌の豚房、交配場が汚れていないか？</li> <li>● 水刷毛が悪いのではないか？</li> <li>● 豚房を洗浄せずに使用しているのではないか？</li> <li>● 母豚の体に合わない小さいストールを使用していないか？</li> <li>● 候補豚をストールで飼養していないか？</li> <li>● 早期の胎児死亡はないか？</li> <li>● 外陰部からおりものを排せつしている母豚を再度交配に使用していないか？</li> <li>● 高齢の雄豚を若い雌に使用していないか？</li> <li>● 若い雄を高産歴の雌に使用していないか？</li> </ul>
--



写真1 ストール通路が汚れないように工夫した構造を映したものです。ストールが通路より一段下がっているため管理がしやすく、動力噴霧機で流しても通路に水が飛びにくい利点があります。

配後六〜二四時間で実施するとよい。  
② 離乳〜交配後二日目まで、餌にトップドレスで感受性薬剤を与える。



写真2 雄の包皮が汚れないように、雄ストールの腹部分をスノコにしてあります。コンクリートのたたきに比べ、包皮を清潔に保つことができます。

③ 群治療として、一〇日間のクリーニングも有効。  
筆者がお邪魔している農場では、子宮内膜炎の予防として、一年に二回程度、一〇日間の抗生物質投与を

表2 子宮内膜炎の予防方法

- 外陰部からおりものがないかを観察する。
- 外陰部からおりもの排せつしている母豚をそのまま交配しない。
- 交配は、しっかり許容している雌のみを使用する。怪しいときは待つ。
- 交配を早く終わらせようとあせらない。
- 1頭の雌に多くの雄を使用しない。
- 交配場は清潔に保ち、感染が起こらないように心がける。
- 授乳日数は21日以下にしない。
- 抗生物質やヨード製剤を用いて子宮内洗浄を分娩直後に実施する。
- 交配可能な候補豚を確保しておく（問題のある母豚を廃用できるようにしておく）。
- 若いオスは若い雌で使用する。
- 離乳から交配後14日目までは、外陰部がひどく汚れない環境を保ち、交配～14日目までは移動などのストレスを極力与えない。

### 日ごとの予防方法

お勧めしています。

分娩率向上を目的として、表2に示したことを実施しましょう。ストールがきれいな農場では、やはり繁殖成績が良い傾向があり、汚い農場では日和見感染が要因で母豚の死亡事故が多いケースがあります。子宮内膜炎の原因は日和見感染が主です。日和見感染は不潔にしていると発症リスクがぐっと上がります。

ハード面の管理で、ストールが乾燥した状態を保てるよう設計することも大切です。ストールや候補豚舎、交配場の掃除はしっかり実施しましょう。そして、最適な状態で交配が実施され、妊娠期も過ごせるようにするのは人の仕事だと思えます。

子豚を産んでくれる母豚を快適に過ごさせること、今一度考えてみませんか？

